

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470500315		
法人名	社会福祉法人キングス・ガーデン宮城		
事業所名	グループホーム 星谷ブランチ	ユニット名	
所在地	宮城県仙仙沼市松崎面瀬17-1		
自己評価作成日	平成27年 11月 1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者が健やかな身体、豊かな心を持ちながら過ごせるように、本人の課題克服及び嗜好、有する能力に合わせた活動を日々実施しています。 併設する隣の棟に交流スペースがあり、家族懇親会、運営推進会議を行う以外にも季節行事や気分転換を兼ねた食事をする等、有効に活用しています。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成27年11月30日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>東日本大震災以前、ホームは仙仙沼市南部の国道45号線から西に入っすぐの所にあつたが、被災し平成25年10月に現在のところ(面瀬川上流付近)に落ち着いた。ふれあい祭りには面瀬地区コミュニティセンターでクリスマス・リースや貼り絵を作り、地域の方と交流を図つた。年間計画があり、モ〜ランドへの花見や新緑、紅葉散策、近くの海岸への海風浴、買い物ツアーなどに皆で出掛けている。協力医は月2回の往診と緊急時に24時間対応をしてくれる。訪問看護ステーションと契約し、月2回の訪問でバイタルをとり、相談にのってくれる他、協力医との間を取り持ってくれるので家族も安心している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **グループホーム星谷ランチ** )「ユニット名」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有し実践している。	お墓参りに行きたいとの希望があり、お盆に花や線香を買い職員が同行した。入居者の希望が達成された時、理念がケアの中で実践されている事を確認出来たが、職員の中には理念をよく理解していない人もいた。	全職員が理念を理解し誰でもが確認できる場所に貼り、朝礼で唱和する等し、一年に一回以上は振り返りをして現状に合っているかを確認するようにして頂きたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地区行事に参加する程度で日常的な交流はほとんどなかった。	地区のふれあい祭りには面瀬地区コミュニティセンターでクリスマス・リースや貼り絵を作り、地域の方と触れあった。法人キングスガーデンでの夏祭りには出店や盆踊り、歌等があり近所の方も参加し交流を図った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣住民の方にそういった啓発活動は出来なかったが、ホームに入所申込みや見学に来所された方等に支援方法等のアドバイスをを行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議出席者に様々な情報を頂き外出支援に幅を広げる事ができた。	会議は2カ月に1回開催され、包括の職員が都度参加している。参加メンバーの民生委員やボランティアの方から夏祭りや盆踊りなど地域の情報を得ることが出来た。市民文化祭には入居者の作品を展示した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回入退去状況を報告する程度で、日頃から連絡を取り合う事はなかった。運営推進会議時まとめて報告したり、アドバイスを頂いたりした。	介護保険制度や入居希望者の事で相談をした。「行事やドライブの写真を撮り、会議の時、皆に見せた方が良い」とアドバイスを受けた。包括主催の「認知症の人と家族の研修会」に参加する等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	大まかな拘束についてはほとんどの職員が理解しているが、認知症状が強く、歩行不安定な利用者に対し行動を規制するようなケアをした事があった。	帰宅願望のある人に「明日送って行くよ、家族へ連絡しておくから」と話し、納得を得ている。一人歩きの際に転倒する事が多い入居者に「立たないで」との声掛けに、職員にはその場で注意し、その事についてはミーティングで話し合った。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	主な5つの虐待については深くはないが、理解できている。入居者に対し声掛けの口調が強めの時があり、その時は職員同士で注意し合った。研修会については11/16に職員が参加予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ほとんど、出来なかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、十分説明を行い、項目毎に疑問点を尋ねた。4月の介護報酬改定時も書面の他、口頭でも説明し承諾を頂いた。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	可能な限り反映するようにした。	家族の面会時や電話の時に意見や要望を聞いている。家族から「日中はパジャマを脱がせて欲しい」との要望があり応じた。クリスマス会に家族や職員、運営推進会議メンバーも出席し、その意見等の改善に取り組んだ。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常のミーティングや月1回の職員会議時、業務内容の改善有無、ケア方法等個人個人の意見を反映させるようにしている。	入浴介助と買い物は遅番が担当をしていたが、職員からの提案で、買い物は早番が担当し、一日置きだった入浴を毎日入浴が出来るようにした。職員の休暇はシフトを作る時に希望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇を毎月とれるようにしている。希望休などはなるべくとれるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々に適した研修会に参加するようにしている。(内外部問わず)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の交流会に参加した。12月には介法協主催の研修会に参加する予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の面会時、初対面で相手方は緊張した様子だったので、こちらばかりが話すのではなく、相手に多く話してもらうように心掛けた。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人より困っている事に関しては介護者である家族側からの意見が多かった。利用していくうえで将来的な希望を細かく聞くようにした。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前、本人及び家族と面接し、希望、意向をよく聞き、利用開始時にサービス計画書を提示するようにした。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とゆったり家族的に過ごす時間も多くなったが、施設という雰囲気が強く、介護する、されるの関係性が強く出ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活の様子を月一回書面ではあるが、詳細に伝えるようにしている。必然的に面会できる工夫は出来なかった。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの理美容室に通える方もいたが、遠距離などを理由に、そういった関係を希薄なものにしてしまった。	美容院をしているお嫁さんが毎月来て店に連れて行っている。法事やお正月に家族が迎えに来て、泊まってくる事もある。入居してから顔馴染みになった人と一緒にお茶を飲んだり、お風呂に入っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性別、年齢、出身地、嗜好的なものの考慮し席位置や活動時には側で過ごせる様対応した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほとんど、出来なかった。退去後の事務処理等で何度か顔を合わせ今後の事を軽くアドバイスした程度。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員がマンツーマンで対応し希望や意向を聴く機会は多く設けたが、うまく表現できない入居者に対しては検討が不十分だった。	尿意はあってもトイレの場所がわからない方や帰宅願望の強い方は落ち着かなくなるのでわかる。津波で今は無くなった店に「洋服を買いに行きたい」との要望に、職員間で話し合いその場所に行く等支援した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、または入居時に本人以外にも家族及び親族、担当ケアマネ等から情報を収集した。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録を行い生活リズムを把握した。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時、本人と家族に希望や意向を聞いている。忙しかったり関心の薄い家族は施設のいいように…と言った意見も。モニタリングは介護職員全員が携わるようにしている。	3か月に1回、評価に基づいて定期的に見直しをしている。家族が面会に来た時に希望を聞き、本人にもどのように暮らしたいか、今困っている事などを聞き、かかりつけ医の意見も聞いて介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子記録が主で具体的なケアポイントを立てて実践し、結果を記録するような事はなかった。現在記録方法変更を検討中。日誌に引き継ぎ欄を設け、情報共有はできたと思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マニュアル的なものは作らず、本人の意向、家族の希望等に配慮し、臨機応変に対応した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の半数位の方には馴染の場所(お店、理美容所)へ連れて行くことができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の承諾も得ているが、家族の希望で往診してくれるホームの協力医に変更する事が多かった。眼科、歯科医等の専門医はかかりつけ医を継続している。	協力医は月2回の往診と緊急時に24時間対応してくれる。訪問看護ステーションと契約しており、月2回訪問し、バイタルや相談にのってくれる他、協力医との間を取り持ってくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、相談の他、指示を仰いだり処置を行ってもらったりした。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度事例なし。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族へ説明を行ったが、現時点では何とも言えないと話された。	重度化や看取りの指針があり、早い段階から本人や家族に事業所で出来る事、出来ないことを説明している。看取りの経験はまだない。ここで終末期を迎えさせたいという要望があり、かかりつけ医の医師とも相談している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、シュミレーシオ的な訓練を行う機会は少なかった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施し、地域の方々にも参加してもらっている。建物内の構造を理解してもらった。	訓練には自治会長が参加し、見守りをお願いした。4月の避難訓練には「避難させたらドアを閉める・火事で煙が出ている場所のドアを閉める」等の指摘を受けた。運営推進会議を活用して地域の参加者を増やしていただきたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が居室に入る時はノックをした後、入居者の返答を確認した後に入室するようにした。羞恥心のある女性利用者に対しては女性職員が対応するようにした。	呼び名は一人ひとりに合わせて自尊心を傷つけないように気を付けて呼んでいる。元お花の先生には「先生」と呼んでいる。ケアをする時には同じ目線で相手の表情を見て対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出する際など身なりは本人に任せてある。(不十分な場合は自尊心を傷つけないよう手直し)誕生日の夕食先や欲しい物など思着せがましくならないようアプローチしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の生活ペースは把握できていたものの職員側の都合が出ていたことがあった。待つケアが不十分だった。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選べない(選ばない)方には職員が準備して着せる事が多かった。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力を有してる方には調理の手伝いをしてもらった。出来ない方にはメニュー作りに参加してもらっている。	メニューを作る時希望を聞いている。魚を捌いたり玉ねぎの皮むき、味付けなど出来る人は一緒にしている。おやつにホットケーキを焼いて食べることもある。栄養バランスは調理師に1カ月に1回相談している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	細かいカロリー計算は行っていないが、バランス良く栄養が摂れるようメニューを作成した。思うように水分摂取が捗らない方に対しては嗜好に合う飲み物を提供した。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方にはブラッシング、嗽を促した。毎食後行う事に関しては不十分だったが、就寝前はほぼ全員が口腔内を綺麗にして休めた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意が曖昧な方、不活発な方に対しては排泄記録を分析し、定期的にトイレ誘導を行い、トイレで排泄できるよう努力した。歩行難の方や目の悪い方等は夜間、本人の希望でポータブルトイレを使用した。	トイレの都度失禁してしまう方がいて、本人、家族の了解を得てポータブルトイレを使用してから失禁の回数が半分に改善された。夜は3人がポータブルトイレ、1人はおむつ、5人は自力でトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘効果のある食物を提供する以外に運動(活動)できるように支援した。それでも排便に至らない方はDrと相談し下剤等を用いた。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	勤務体制の都合上、入浴する時間が偏ってしまった。三日に一度のペースで入浴しているが、希望があれば随時対応するようにした。	職員と世間話をしながら入浴を楽しんだり、入浴剤を入れて入浴を楽しんでいる。拒む人はいない。夏は水虫の方やおむつの方等は清拭にしたり、清潔にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間ぐっすり眠れるよう、日中適度な活動を行えるよう支援した。晴天時は布団を干すなど、快適な睡眠ができるよう寝具の保清を行った。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を熟読し、効能の他、副作用等についても職員同士で話し合った。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせ内部活動、外出支援を行った。活動範囲が限定される方に対する支援は不十分だったと思う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来た方、出来なかった方にはっきり分類された感が強かった。やや長めの距離が歩けない方、不活発な方は外出する機会が少なかった。3分の2は月数回外出できている。	天気の良い日は敷地内を散歩している。年間計画があり、モ～ランドへの花見や新緑、紅葉散策、海風浴、買い物ツアー等に皆で出掛けている。家族との外出や墓参りなど個別の外出支援は柔軟に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望と家族の希望が合致しない事もあり、所持できている方は半分位。残り半分の方は完全に施設管理となってしまった。所持している方には遣わずとも持っている事で安心感を生んでいる方も。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話できるようにしている。家族から電話が来た時は職員宛でもその後、本人とお話できないか伺うようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内は季節感を出すように装飾等工夫した。温度、湿度はこまめにチェックしているが、職員の体感温度に合わず事もみられた。	ホール内は明るく、自然換気をしており、臭気や空気の澱みがない。入居者が集まりおしゃべりをしている。壁には柿の貼り絵や行事の写真が貼ってあり、テーブルにはシクラメンの花が置かれている。干し柿が吊るしてあり、季節を感じる事が出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール以外、直線廊下にソファや椅子を設置し、利用者同士で会話できる環境作りを行った。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事等をするホールに集まりがちで居室で自分なりの時間を過ごす方は少数だった。帰宅願望あり常に帰り支度をしている方には生活感ある環境を作ってやれなかった。	家族には馴染みの物を持ってきてもらえるように話している。居室には思い出の家具や神棚、本、CDなどを持ち込み、壁には誕生日や自筆の習字、家族との笑顔の写真が飾られ、居心地良く過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	多くの工夫は施していない。ほとんどの方が自室やトイレを把握できている。		